

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	HIYOKO MUSIC新田教室（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年 4月 14日 ～ 2026年 4月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	3名
○従業者評価実施期間	2026年 4月 14日 ～ 2026年 4月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との安定した関係性が構築出来てきている。	保護者様にお子様の成長を具体的にイメージしていただけるよう、日々の活過ごしの中での様子や状態をわかりやすく伝えることを意識して取り組んだ。 また、保護者様からの相談等には迅速に施設訪問や面談、電話等の対応を行い寄り添う姿勢を大切にした。	日々の保護者様への申し送りを丁寧に行い、家庭や学校の様子、事業所での様子を共有することで共通理解を持ち支え貫いた支援を行えるように努める。保護者様からの相談や申し入れに対して今後も迅速かつ適切に対応を行う。
2	小学生と一緒に同じ活動をする中で、発達段階に応じた関わりを行っている。	小学生と一緒に取り組み活動する中で、個々の発達段階に合わせた関わりを行うことを意識している。 また、同じプログラム内容でも子どもたちが達成感を感じながら活動に参加できるよう個々に合わせたプログラムの提案を行っている。	児童発達支援を利用する子どもたちが、小学生と同じ環境で活動できることが強みや自信になるようなプログラム立案を子どもたちの様子に合わせて行う。今後も1人ひとりに寄り添い発達段階に合わせた支援を工夫する。
3	季節に合ったプログラムを行うことで季節感を意識した支援が提供できる。	毎月のプログラムを、その月の行事や季節に合った内容にすることで楽しみながら親しみをもち、季節感を意識しながら活動できるようなプログラムの立案を意識した。	プログラム作成の際は季節を感じられる内容にし、行事や季節、流行を積極的に活動に取り入れていく。音楽療育の特徴を活かしながら季節の歌等を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	近くのこども園や幼稚園との交流等、同じ地域の同年代のお子さんたちと活動や交流をする機会を作ることができていない。	外活動での活動を通して近所の公園などでは定期的に活動を行い近隣住民とかかわることはあるが、地域のこども園、幼稚園の児童との交流を行う機会を設けることができていない。	地域の公園などを活用した外活動を継続して行い、かかわりの場を増やしていく。近隣の幼稚園、保育園への挨拶回りをおこない連携を強化する。
2	父母の会等、保護者同士が交流できる場や普段の支援の様子を実際に見ていただく機会を設けることができていない。	保護者同士の交流や、日々の支援の様子を見ていただくイベント等を企画することができていない。 現状、日々の様子については口頭のみで伝えている状況になっており、実際の様子を見ていただく体制が整っていない。希望者によっては施設での様子を動画などで伝えている。	今後、保護者からの要望があった際は茶話会など保護者の交流の場を設けられるよう企画していく。活動の様子を実際に見ていただくことができるよう写真や動画で見る機会の設定から取り組んでいく。
3	職員の定着に時間がかかってしまった。	職員の入れ替わりがあり、スタッフの定着に時間がかかってしまった。	職員育成マニュアルの見直しを行い、人材育成に力を入れていく。日々の業務内容の見直しを行い、働きやすい環境づくりに努める。